

発行 わがまち大田  
 六郷地区推進委員会  
 編集 「六郷わがまち」編集委員会  
 事務局 大田区六郷特別出張所  
 〒144-0055  
 大田区仲六郷 2 - 42 - 2  
 電話 03 (3732) 4885 (代)

六郷特別出張所管内	
人 口	男 31,783 名
	女 30,050 名
	計 61,833 名
世帯数	27,802 世帯
平成 12 年 9 月 1 日現在	

# 六郷わがまち

## 手仕事の伝統に生きる

IT (情報技術) 革命が声高に叫ばれるご時世に逆行するわけではありませんが、本号では今や職業として成り立ちにくい手仕事の伝統技術を守り続けている 4 人の方をご紹介します。過去から未来を見るために。

### とんびだこ 鳶 凧 づくり

上田 格一 氏

〔住所〕大田区北嶺町 18-1-3

☎ 3729・4328

〔生年月日〕昭和 4 年 10 月 17 日

元西六郷小学校校長

〔技の伝承〕六郷のとんび凧は江戸時代の末期から、八幡塚村



(現宮本町会を中心とした村)で作られ、最盛期の昭和 10 年代には年間 10 数万枚が、国内はもとよりイギリス・アメリカ・フランス・カナダへも輸出されていました。しかし、32 年に最後の凧師竹内権次郎翁が廃業すると衰退の一途をたどります。これを憂えた当時区議の須山長太郎氏が、竹内翁に頼んで大小のとんび凧を作ってもらい、六郷地区の各小学校に寄贈し保存を図りました。また 48 年には、平野順治氏が病床の竹内翁を訪ねて、詳細な聞き書『六郷の鳶凧』を著しました。

上田先生が六郷小学校の教頭に赴任した 54 年、一年生の国語の教材(光村図書)「たこ」の本文に、形の珍しい凧として、六郷のとんび凧が挿絵入りで掲載されていました。そのため各地から問い合わせが殺到。対応に苦慮した上田先生は、須山氏寄贈のとんび凧を見本に工夫を

重ね、廃絶に瀕していたとんび凧の復元に取り組んだのでした。〔素材〕現在使用しているのは伊豆松崎の真竹・小津和紙博物館の和紙・麻糸・墨汁・木工ボンド・ポスターカラー。〔種類〕大とんび(羽切り・翼長 134cm)・小とんび(翼長 96cm)・小々とんび(翼長 70cm)〔用具〕のこぎり・切出し・はさみ・カッター・丸ヤスリ・中筆・洗たくバサミ。

〔現況〕上田先生は西六郷小学校の校長退任後も、専心とんび凧の復活と普及につとめ、吉田康秋・恒男の両氏をはじめ同好の有志を集めて「六郷とんび凧の会」を結成、毎年秋、六郷文化センターの成人講座でその作り方を指導するとともに、1 月 15 日に開かれる「古川葉師凧の会」の新春凧揚げ大会にも活躍されています。21 世紀の空高く六郷とんびのユニークな袋羽根に夢がふくらむのを祈りつつ。

### 仏像を彫る

鈴木 忠典 氏

〔住所〕仲六郷 1-45-13

☎ 3738・3951

〔生年月日〕昭和 3 年 11 月 10 日

〔屋号〕大忠

〔技の伝承〕大忠さんは昭和 18 年 3 月、数え年 15 で横須賀の水雷学校に入って従軍、終戦の翌年ふるさと横手市で堂宮師をしていた叔父の家に弟子入りしましたが、過酷な修業に耐えかねて 24 年上京。そのころ幸田露伴の『五重塔』を読んで感激し、五重塔を建てたい一心から職人になろうと決意しました。高輪の兄嫁の家に身を寄せて、深川の宮大工佐川三津男氏、さらには東京で 5 本の指に入る名工といわれた高輪の滝井源之助氏のもとで働き、28 年現在地に移ってから高輪へ通勤しました。



ある年のこと。仲間と伊豆下田の真言宗普生寺の改築に行き、観音様の取れた腕を修理しているとき、それを見ていた住職から仏像を彫ってみたいかと声をかけられ、鎌倉市長谷の石原照治仏師を紹介されました。ここで大忠さんは初めて仏像彫刻の基本を学んだそうです。その後、京都の大仏師松久明琳さんから教えを受けるようになり、大

工仕事の合間をみては鎌倉へ行き、京都へと足を運びました。一生懸命に彫った仏像を持参すると、駄目なものはその場で割られ、ずいぶん悲しい目にも会いました。こうした生活は 48 年ごろまで続くのですが、それは仏師になるのか、安定した職の大工仕事をするのか、迷いの年月でもあったといえます。

〔素材〕サクラ・ケヤキ・イタヤモミジ・ヒノキ。〔用具〕彫刻刀 50 本・のみ 20 本・小かんな・木槌・その他多数。〔制作〕これまでに彫った仏像は 1m70cm のもの 4 体、60cm 前後 30 体、30cm 16 体。〔現況〕昭和 60 年代、上野美術館での群像美術協会彫刻部コンクールで入賞。銀座サエグサ画廊での個展 3 回。古希を過ぎた今は、松久明琳師の「木の中の仏迎える鑿の技」をモットーに、見る人が思わず拝みたくなるような仏像を彫り続けています。

# 釣竿づくり

## 里見湖朗氏

〔住所〕 仲六郷三丁 7-17

☎ 3738・7278

〔生年月日〕 大正 14 年 12 月 24 日

〔屋号〕 里見釣具店

〔技の伝承〕 里見さんは予科練出身の爆撃機乗りで台湾で終戦を迎え、昭和 21 年に復員。それから川口市で竿師（和竿製造販売）をしていた長兄の家に身を寄せ、釣竿づくりの修業に励みました。昭和 25 年 5 月、独立して東六郷三丁目 24 番地に釣具店を開き、55 年 5 月から現在地に移っています。



「素材」材料の矢竹・破竹・丸節・布袋竹は、千葉県大滝喜町の竹屋から仕入れてあります。「竿の種類」①川釣りの竿は 4m 50cm の長さが標準ですが、ヤ

マベ・イワナ・ハヤ・アユなどの溪流釣りの竿と、フナやコイを釣る川や沼での竿とは、微妙な違いがあるそうです。②海釣りの場合、磯釣りの竿で一番長いのは 5m 40cm。カワハギ・キス・ハゼ・アイナメ・カレイなどを釣る船釣りの竿は標準が 1m 80cm で、これにはリール（巻きわく）を付けます。「工程」①竹の仕入れ。②切り組。里見さんの作るのはすべて「つなぎ竿」で、穂先↓2 番↓3 番↓4 番↓5 番（2〜5 番は矢竹）↓手元（主として破竹。ときに布袋竹）と、それぞれの寸法に切ります。③火入れ。昔は火鉢、今はガスコンロで 2〜3 分竹をあぶって、タメギでゆ

がみを直します。④切口糸止め。つなぎの部分で 10〜15cm 絹糸かガス糸できっちり巻きます。⑤つなぎ。次の竿を差し込みやすいように、糸を巻いた切口の中をキリでけずります。川釣りの竿は中の節も抜きます。⑥ウリシ塗り。切口の糸を巻いた部分は黒ウルシ、竿全体には生ウルシを塗ります。この仕上げが最もむずかしい、ということですが。「用具」のこぎり・巻尺・平ヤスリ・キリ・タメギ・ウルシ刷毛。「現況」竿師としての仕事が忙しく景気がよかったのは昭和 40 年までで、それ以降は値段の安いグラスファイバー竿やカーボン竿が出回って和竿愛好者は十分の一に減ってしまったという。

# 大森細工

## 高橋雄喜次氏

〔住所〕 東六郷一丁 4-2

☎ 3738・5222

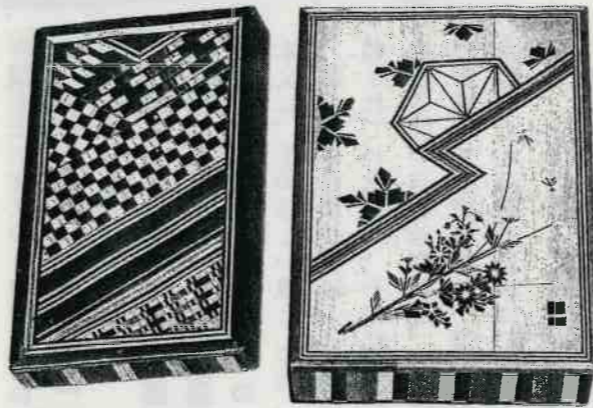
〔生年月日〕 昭和 4 年 2 月 1 日

〔技の伝承〕 麦わらで作る大森細工は、江戸中期から東海道の名高い土産品として、旅人に喜ばれた郷土玩具であった。その制作は大森村に限らず、街道筋の蒲田村・雑色村・八幡塚村でも行われていました。しかし、自動車や電車が走り始めると、東海道を往返する旅人の数は急激に減り、その生産と販売は年

を追って低下し、やがて川崎大師や穴守稲荷の門前で売られる程度になってしまいました。そうした状況下、最後まで大森細工の孤塁を守っていたのは、八幡塚村の出村（現東六郷一丁目付近）の高橋家で、雄喜次氏の祖父喜三郎は、明治 44 年（一九一）荏原郡物産共進会に出品して東京府知事阿部浩から表彰され、その跡を継いだ父国五郎も昭和 10 年前後までクリスマス向けの海外輸出にも力を入れていましたが、昭和 20 年 5 月、疎開先の小淵沢で亡くなってしまいました。焼跡に戻ってきた長男の雄喜次氏は、家族 5 人の生計を立て



最後の細工人 高橋氏とその遺作



左側の幾何学模様が大森細工の最も特徴的な張り方

なければならず、京浜工学院卒業後、父親仕込みの大森細工を懸命につくり、銀座の三越・松屋・小松ストアなどに卸しに行きました。24 年、都庁に務めるまでの 19 歳から 20 歳のころです。「種類」染色した麦わらを刻んで桐箱に張り付ける「はこ物」と、稗状のまま虎・熊・亀などを編んで作る「ひねり物」。「現況」大田区立郷土博物館で「麦わら細工の輝き」という特別展が開かれる直前の平成 11 年 8 月 10 日、「はこ物」を得意とした雄喜次氏は惜しくも 71 歳で世を去りましたが、展示された遺作の数々は精巧をきわめ、有終の美を飾っていました。

と思っています。（仲四・防火部長・湯沢 靖）



# 拍子木に防火防災の願いをこめて

## 千葉幸吉氏 消防司令補

蒲田消防署管内に 8 年余勤め、六郷出張所当時、消防司令補の千葉幸吉さんは、防火防災の夜まわりの時にたたく拍子木を作り、各町会や知人に配って大変喜ばれました。

千葉さんは現在、池袋消防署に勤務しておられますが、池袋へ行かれる少し前の昨年春、こんどは「火の用心」の文字の下に町会名まで書き入れた拍子木を作り、地域住民の安全の願いをこめ、お祓い

までして、各町会に配ってくださいました。この拍子木は手さわりのよく、たたけば遠くまで澄んだ音がひびいていきます。わたしたちは、この素晴らしい出来映えの拍子木を、防火防災を訴えつづける千葉さんの真摯な心とともに、いつまでも大切にしていきたい

計 報  
六郷地区自治会連合会長兼 仲六郷一丁目町会長・大塚 俊隆氏が、9 月 10 日逝去されました。65 歳。謹んでご冥福を祈ります。

# 六郷の草たち ⑬

六郷ゴルフ練習場の周りや川辺の道ぞいに、つる草のガガイモが淡紫色の花を一面に咲かせていたのは猛暑のころでした。



## カガイモ

（カガイモ科）

秋になると、ガガイモは 10cm ほどの大きな袋果を付けます。中には白い絹毛を付けた種子がつまみついて、昔は綿の代用や印肉に使われたそうです。はじけた袋果から、種子は晩秋の空へ飛び散ってゆきます。（古屋のり子）